様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ６ 月 １６ 日現在

機関番号：３２６７７
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2016～2019
課題番号：１６Ｋ０２６１１

研究課題名（和文）植民地期朝鮮のプロレタリア文学・文化運動と日本との関係研究

研究課題名（英文）Proletarian Literary/Cultural Movement in Colonial Korean and its relationship with Japan

研究代表者
渡辺　直紀（Watanabe, Naoki）

武蔵大学・人文学部・教授

研究者番号：８０４０９３６７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、1920年代後半から1930年代後半にわたって展開された植民地朝鮮のプロレタリア文学・文化運動と日本の同種の運動との関係を明らかにしたものである。植民地朝鮮の文学全般と日本との関連様相を検討する研究はこれまでもいくつかあった。本研究では、そのうちプロレタリア文学の研究に特化して、韓国における日韓比較研究の成果を参照しながら、それらを日本の学界にも開き、世界のプロレタリア文学・文化運動の比較研究のための基盤整備をおこなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
植民地朝鮮と日本のプロレタリア文学・文化運動の関連様相を究明する研究は、これまで主として、韓国のプロレタリア文学研究が、自国のプロレタリア文学を研究しながら、日本の1920-1930年代当時の議論を比較・検討の対象とし、時にそれらを韓国語に翻訳して基礎資料を作成するなどの作業を中心に行われてきた。本研究では、韓国主導で行われてきたそのような研究を、調査や研究会、シンポジウムなどの開催や、調査書・論文などの発表を通じて、日本のアカデミズムや言説空間に開くことで、日本でプロレタリア文学を研究する者や、諸外国で東アジアのプロレタリア文学の比較研究を行う者の研究に資するための基盤を構築した。

研究成果の概要（英文）：This research clarifies the relationship between the proletarian literary and cultural movements in colonial Korea that developed from the late 1920s to the late 1930s and the same kind of movements in Japan. There have been several researches that examine the relationship between the literature of colonial Korea and Japan. In this research, I have made reference to the results of the comparative research between Japan and Korea, with a special focus on the study of proletarian literature, and opened them up to the Japanese academic community in order to make the basis for the comparative study of proletarian literature and cultural movements in the world.

研究分野：韓国・朝鮮文学　東アジア比較文化

キーワード：韓国・朝鮮　プロレタリア文学　植民地　KAPF　文学運動　植民地朝鮮映画

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

１．研究開始当初の背景

申請者はこれまで、植民地朝鮮の文学、なかでも 1920 年代後半から 1930 年代にかけて展開したプロレタリア文学の研究に従事してきた。この時期の朝鮮のプロレタリア文学は、カップ（ＫＡＰＦ、朝鮮プロレタリア芸術同盟）という文学団体を中心に展開した。当時、朝鮮は日本の植民地だったこともあって、それは日本における各種の論争や議論の影響下にあったが、一方で、階級問題にくわえて植民地問題や民族問題を視座に入れることで、独自の展開を見ることにもなった。また、アジア・太平洋戦争の終結後、このプロレタリア文学の作家らは、南北に分断された、それぞれの国の文壇や文学活動に多大な影響を及ぼした。社会主義国家となった北朝鮮では、本格的な社会主義リアリズムの文芸を展開していくうえで、旧カップのメンバーであった李箕永や韓雪野らがおおいに活躍し、自由主義陣営となった韓国においても、（かなり抑制された形ではあったが）金基鎮や白鉄などの旧カップのメンバーたちが、独自の評論活動をしながら、植民地時代の文学運動を回顧したり、それを文学史的に評価したりして研究が進められてきた。

このような経緯から、植民地朝鮮のプロレタリア文学研究は、まず南北朝鮮の本国において、それを文学史的に評価することから始まった。また、特に 1980 年代後半以降の韓国の研究では、1920 年代や 1930 年代に日本のプロレタリア文学運動のなかでどのような議論があったかをつきとめ、それが、同じ時期の植民地朝鮮での議論にどのように影響していたかを究明する研究が進んだ。このときに、韓国における日本のプロレタリア文学運動自体に対する研究も進み、関連資料も韓国語にかなり翻訳されることで、この分野の研究の土台を形成した。申請者も、この研究プロジェクトを開始する以前、韓国に留学していた時期に、韓国におけるこのような研究環境のなかで一定の役割を果たし、みずからの研究業績を学界に問うた。

２．研究の目的

本研究は、これまで主として南北朝鮮において進められてきた、植民地朝鮮のプロレタリア文学・文化運動と日本との関連の究明を続けながら、同時にその研究を、日本のアカデミズムにフィードバックして点検する作業であった。つまり、日本の影響を陰に陽に受けた植民地朝鮮のプロレタリア文学に対する南北朝鮮での研究を、さらに日本のアカデミズムに還元しフィードバックして、日本や諸外国の研究と交差させることで、この分野の研究における新たな展開と展望を切り拓いた。日本における同様の趣旨の研究としては、たとえば科研費の研究として、大村益夫のものや波田野節子のものがあったが、大村のものは植民地朝鮮の文学全般と日本との関連を究明したものであり、波田野のものは、そのうち朝鮮人の文学者による日本語創作に特化して研究を進めたものであった。申請者自身も波田野節子が代表者であった２つの科研費研究に分担者として参加し、一定の成果を収めたが、このような成果の延長線上に、今回はプロレタリア文学・文化運動の日本と韓国における関連様相に特化して、その研究をさらに進めた。その目的を達成するために、本研究では、1920 年代後半から 1930 年代後半にわたって展開した植民地朝鮮のプロレタリア文学・文化運動と日本の同種の運動との関係についての研究を行った。植民地朝鮮の文学全般と日本との関連様相を検討する研究はこれまでもいくつかあった。本研究では、そのうちプロレタリア文学の研究に特化して、韓国における日韓比較研究の成果を参照しながら、それらを日本の学界にも開き、世界のプロレタリア文学・文化運動の比較研究のための基盤整備をおこなった。

３．研究の方法

（１）植民地朝鮮のプロレタリア文学運動や論争の研究、（２）中心的な役割を果たした詩人・評論家の林和の文学世界の照明、（３）植民地朝鮮の映画事業と、当時の日本での同種の文学運動・映画事業の関係の究明を、それぞれ単年度で進めるテーマとして研究をおこなった。韓国やアメリカの大学で韓国文学や比較文学、東アジア映画、日本文学の研究に従事する研究者らと、韓国や北米地域で定期的に情報交換や研究会、ワークショップなどを開催しながら研究を進めた。平成 28（2016）年度は植民地朝鮮のプロレタリア文学論争と日本との関連を研究し、そのための基礎資料もあわせて作成した。平成 29（2017）年度は林和の文学世界に関する研究を行い、そのための基礎資料もあわせて作成した。平成 30（2018）年度は勤務校で在学研究の機会を得たので、韓国・高麗大学校に籍を置きながら関連の研究をおこなった。ただし、年度を通じて主としてソウルに在住しながら、韓国の研究者と韓国国内で研究交流ができ、旅費などの執行がかなり節約できることが予想されたため、本来、最終年度であった本年度の研究を翌年度に繰り越して、この年度には自ら関連の研究を進めるにとどめた。平成 31・令和元（2019）年度は、植民地朝鮮のプロレタリア文化運動と映画事業が日本から受けた影響などについて調査・研究し、そのための基礎資料を作成した。（各年度に発表した論文や著書、おこなった学会発表は「５．主な発表論文等」を参照のこと。）

４．研究成果

４年間実施した本研究は、おおよそ次の３つの事柄の究明を中心に進められた。

第１に、植民地朝鮮において 1920 年代後半から 1930 前半にかけて展開したプロレタリア文学・文化運動で、実際にやりとりされた各種の論争（内容と形式論争、目的意識論争、芸術大衆化論争、農民文学論争、社会主義リアリズム論争など）を概観し、日本との関連様相を究明するための概略図を描いた。そのためには、韓国や諸外国の研究者たちと、その論争の詳細について検討し、場合によっては世界の他の地域の同種の論争とも比較をおこなった。また、議論の土台となる基礎資料（主として朝鮮語でおこなわれた当時の議論の数々）を日本語に翻訳して作成した。朝鮮のプロレタリア文学における各種論争を日本語で概観できるようにすることで、日本のプロレタリア文学を研究する日本の研究者らの研究にも大きく貢献した。

第２に、植民地朝鮮のプロレタリア文学にとって大きな役割を果たしたカップ（ＫＡＰＦ、朝鮮プロレタリア芸術同盟）で書記長をつとめた林和（1908-1953？）の文学世界を照明した。彼は最初、詩人として出発し、カップの各種論争でも主導的な役割を果たした。また、カップ解散後も評論家として各種の議論を先導し、朝鮮の近代を究明する文学史叙述の骨格作りや、当時の植民地朝鮮での映画製作の作業などにも深く関与し、数多くの業績を残した。彼の文学世界を照明するための研究を進めながら、同時に、彼の業績を日本語に翻訳して基礎資料を作成した。林和の文学作品は、これまで代表的な詩作品程度しか日本に紹介されてこなかったが、この作業を通じて、日本と韓国との間のプロレタリア文学研究の交流も、これまで以上に多様に展開した。

第３に、植民地朝鮮のプロレタリア文学者も数多く関与した、同時期の朝鮮における映画事業、特に映画評論の実際について見取り図を描いた。植民地時代の朝鮮映画は、実際の作品が散逸するなどの理由で、長い間、実質的な研究が進まずにいたが、今世紀になって、韓国映像資料院が北京やモスクワなどで、散逸したと思われていた映画フィルムを発掘し、2007 年にＤＶＤ『発掘された過去』として刊行したのを機に、主として韓国で数多くの研究が進められるようになった。言うまでもなく、植民地朝鮮の映画事業も、当時の日本の映画史との関連を抜きにしては語れない。ただ、植民地映画を議論する次元において、その内容には独自の展開も見られるため、その流れを概観したことはきわめて重要である。また、その作業は同時に、同時期の日本映画を研究する者にもおおきな示唆を与えた。この部分についても、韓国や諸外国の研究者と話し合いを重ねて研究を進め、その前提となる基礎資料を選定して日本語にも翻訳して資料集を作成した。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計4件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 渡辺直紀	４．巻 49(1)
２．論文標題 満映映画のハルビン表象 ： 李香蘭主演『私の鶯』(1944)論	５．発行年 2017年
３．雑誌名 武蔵大学人文学会雑誌	６．最初と最後の頁 211-250
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 渡辺直紀	４．巻 vol.3
２．論文標題 「帝国」と「民族」の交差路で―林和研究からはじめて	５．発行年 2016年
３．雑誌名 跨境／日本語文学研究	６．最初と最後の頁 9-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 渡辺直紀	４．巻 第48巻第1号
２．論文標題 太平洋戦争期の日朝合作映画について―今井正／崔寅奎の『望楼の決死隊』（1943）『愛と誓ひ』（1945）を中心に	５．発行年 2016年
３．雑誌名 武蔵大学人文学会雑誌	６．最初と最後の頁 141-167
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 渡辺直紀	４．巻 第48巻第2号
２．論文標題 李香蘭映画の植民地朝鮮・台湾における受容	５．発行年 2017年
３．雑誌名 武蔵大学人文学会雑誌	６．最初と最後の頁 79-101
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計13件（うち招待講演　4件／うち国際学会　9件）

1．発表者名 渡辺直紀
2．発表標題 植民地朝鮮の日本語文学（韓国語で発表）
3．学会等名 中国海洋大学韓国研究中心（中国・青島）（招待講演）（国際学会）
4．発表年 2018年

1．発表者名 渡辺直紀
2．発表標題 植民地朝鮮の芸術大衆化論争と日治期台湾の郷土文学論争の比較研究（英語で発表）
3．学会等名 Center for Chinese Studies, Taiwan（招待講演）（国際学会）
4．発表年 2019年

1．発表者名 渡辺直紀
2．発表標題 林和の文学とその時代―植民地朝鮮のプロレタリア文芸批評と民族主体
3．学会等名 朝鮮文化研究会（国際学会）
4．発表年 2017年

1．発表者名 渡辺直紀
2．発表標題 植民地朝鮮の日本語文学―李光洙と金史良を中心に
3．学会等名 南京大学韓国学研究中心（招待講演）（国際学会）
4．発表年 2017年

１．発表者名 渡辺直紀
２．発表標題 植民地朝鮮の日本語文学―雑誌『新時代』所収の李光洙の文章を中心に
３．学会等名 第４回世界文学・語圏横断ネットワーク研究集会
４．発表年 2016年

１．発表者名 Naoki Watanabe
２．発表標題 The Colonial Reception of Ri Koran’s Films in Korea and Taiwan
３．学会等名 Transnational Humanities in Korean Studies（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Naoki Watanabe
２．発表標題 Harbin Representation in Man’ei Film: on Ri Koran’s Watashi no Uguisu (My Nightingale , 1944)
３．学会等名 Third Annual UCLA Trans-Pacific Workshop: The Politics of Life and Death（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 渡辺直紀
２．発表標題 『北の詩人』再読ー林和と朝鮮文学
３．学会等名 国際日本文化研究センター共同研究会「戦後日本文化再考」第９回
４．発表年 2016年

１．発表者名 Naoki Watanabe
２．発表標題 The Comparison of 'Postwar' between Japan and Korea in late 20th century: on the Aspects of Redress
３．学会等名 Comparative Postwars: Japan, Germany, and Elswhere（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Naoki Watanabe
２．発表標題 The Transculturation of Pearl Buck’s The Good Earth in 1930’s East Asia
３．学会等名 AAS (Association for Asian Studies) 68th Annual Conference（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Naoki Watanabe
２．発表標題 Proletarian Poetry and Literary Criticism in Japan and Korea : Critical Linkages among Nakano Shigeharu, Im Hwa, and Lukacs
３．学会等名 AAS (Association for Asian Studies) in Asia 2017 conference (Korea University, Korea)（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 渡辺直紀
２．発表標題 李香蘭映画の朝鮮・台湾・上海
３．学会等名 第６回東アジアと同時代日本語文学フォーラム(復旦大学、上海)
４．発表年 2018年

１．発表者名 渡辺直紀
２．発表標題 林和を見る南北朝鮮の視角
３．学会等名 成均館大学校東アジア学術院シンポジウム「東アジアの平和体制と南北朝鮮の文化芸術交流の方向」
４．発表年 2019年

〔図書〕　計5件

１．著者名 渡辺直紀	４．発行年 2018年
２．出版社 ソミョン出版（韓国）	５．総ページ数 360
３．書名 林和文学批評――プロレタリア文学と植民地的主体	

１．著者名 編集部編	４．発行年 2018年
２．出版社 ソミョン出版（韓国）	５．総ページ数 924
３．書名 ソミョン出版20年／韓国文学研究20年	

１．著者名 林和文学研究会	４．発行年 2016年
２．出版社 ソミョン出版（韓国）	５．総ページ数 278(255-278)
３．書名 林和文学研究・５	

１．著者名 坪井秀人編	４．発行年 2019年
２．出版社 三人社	５．総ページ数 603(242-266)
３．書名 戦後日本文化再考	

１．著者名 Annika A. Culver, Norman Smith ed.	４．発行年 2019年
２．出版社 Hong Kong University Press	５．総ページ数 315(269-284)
３．書名 Manchukuo Perspectives: Transnational Approaches to Literary Production	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	李　京薫 (Yi Kyoung Hun)		
研究協力者	金　在湧 (Kim Jae Yong)		
研究協力者	李　相雨 (Yi Sang Woo)		

６．研究組織（つづき）

	氏名 （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	朴　光賢 (Park Kwang Hyun)		
研究協力者	鄭　鍾賢 (Chung Jong Hyun)		
研究協力者	具　仁謨 (Ku Inmo)		
研究協力者	ヒューズ　セオドア (Hughes Theodore)		
研究協力者	権　ナヨン (Kwon Nayoung)		
研究協力者	崔　ギョンヒ (Choi Kyeong-Hee)		
研究協力者	朴　ソニョン (Park Sunyoung)		
研究協力者	李　ジンギョン (Lee Jin-kyung)		